

2021年度しおあなの森保育園事業報告

堺中央共生会しおあなの森保育園が設立して10年目が終了した。今年度は9名が入園し計105名でスタートした。また30名の子どもたちが、しおあなの森保育園で過ごした経験を胸に各小学校へと巣立っていった。

1. 保育について

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、今年度も異年齢の合同保育や、保護者が集まる行事等も縮小、制限を余儀なくされた。子どもたちの成長発達を願って取り組んできた遊び(プール、夏まつり、運動会、生活発表会、異年齢保育、他園・地域の施設との交流保育、散歩、遠足等)のほとんどもまた、縮小せざるを得なかった。しかし広い園庭があることで子どもたちは園外に出かける機会がなくても、十分に体を動かして遊ぶことができた。菜園活動を通しての食育や、果実を収穫してその場で食べるなど、園の特徴を生かした保育を大切にしたい一年を送ることができた。

子ども達、職員、その家族が感染、または濃厚接触者になり、数回、クラス単位での休園状態となったが、子どもたちの健康と安全を第一に考え、コロナ禍の日常生活、今できる遊びを模索しながら取り組んできた。参観などで保護者に集まっていただくことができないので、送迎時に子どもたちの様子を取った動画を見て頂いたり、クラス新聞で紹介する取り組みを行ってきた。保護者の皆様にはしおあなの森保育園の保育活動にご理解ご協力をいただき、園運営ができたことは何よりありがたいことであった。

来年度もコロナの対策を講じながら、今年度できなかった遊びを復活し、少しでも子どもたちが豊かな環境の中で生活できるように取り組んでいきたい。

2. 延長保育の利用について

今年度は延べ480件(実利用人数47人)あり、今後も保護者の就労状況に伴う延長保育のニーズに応えていきたい。

3. 一時預かり・園庭開放・子育て支援

新型コロナウイルスの感染対策を継続しながら、一時預かりは1件、乳児全戸訪問11件、園庭開放は2回行うことができた。一時預かりを経験した子どもは入園希望がかない、4月からしおあなの森保育園に通っている。全戸訪問では周辺地域の保護者の方のニーズ(子どもを預けて就労したい)もお聞きした。訪問することで気軽に子育ての相談にも応えることができた。園庭開放では、コロナ禍での開催で少ない参加者ではあったが、サンタさんからプレゼントを直接もらえる体験、めったに出来ないおもちゃ体験ができたことを喜んでいただけた。

ホームページを活用して活動内容や絵本の紹介をして、園外に向けてのアピールにも取り組んできた。

来年度も引き続き、保育園内外の保護者の子育て支援に園全体で取り組んでいきたい。

4. 地域との交流について

大仙西、新湊への小学校見学は中止になったが、児童による小学校紹介のDVDをいただいた。子どもたちは小学校入学を期待と共に不安な気持ちももっていたので、心のこもったDVDを見て、安心して就学を迎える手助けとなった、お礼の手紙を小学校に届け、交流をすることができた。コロナ収束後は、地域の施設との異世代交流、デイキャンプの布袋湯体験など、再開していきたい。

5. 研修について

非対面型の研修が主流となり、キャリアアップ研修を中心に保育の質向上に向けて積極的に参加した。

園内では乳児保育、幼児保育会議、各委員会を通して、しおあなの森保育園の子どもたちに育ってほしい姿を確認しながら、表現、環境、運動遊び等の成果や課題を話し合い、各年齢の保育内容につなげ、少しずつ保育の質向上につながっている。来年度も職員同士での学びあいを大切に、研修等に取り組んでいきたい。

6. その他

また、職員の対応、態度や言動について苦情が3件あった。保護者の苦情内容をしっかりと受け止め、その都度改善し、保護者の方に説明をして理解していただくよう努めてきた。